

## 金沢美術工芸大学学報創刊に際して

学 長 森 田 亀 之 助

本学内で授業、研究に従事している人々の新しい研究或いはその造詣の一端でもを發表する、この種機関誌を刊行したいとは、予てからの念願でありましたが、今度、本学が四年制大学となつた第一年度に於て、しかも、創立以来十週年記念日を前にして、愈々その実現に着手するに至つたのは、まことに欣ばしいことであります。

何に致せ、本学としては初めての試みであるから、出来上つて觀たら、色々不備な点も見出されはせぬかと思ひますが、勿論、それ等は今後逐次改善して行く積りであります。

美術大学は、其の性質上、教授陣内に技術家が多いのは当然です。学科関係の人々の論文の如きは、大体活字で印刷できるものであるから、編輯資材として問題はないが、技術家の研究成果は、活字では現はせない作品が即ちそれでありませう。これ等を相当な舛裁で誌上に収めることは、製版などで費用も嵩みますし、又、それ等芸術作品は殆んどが、展覧会等で公にされていますので、創刊号準備多忙の際、割愛させてもらつたのです。然し、これは矢張り学内研究の一部を代表するものであるから、全部でない迄も、その特殊なものだけでも、複製登載すべきものでしょうし、亦その製作の径路などに、語るべきものがあつて、全時にそれをも掲載するなどできれば、之も有意義であると考えられますので、将来は、できるだけ、さように致したいものです。

兎も角、学内研究施設の整備を図ると共に、その成果發表の方へも精々力を尽したい考へでおります。